



民法正則議員

筆まつりでの彼岸船▶



Q 彼岸船の保存施設の建設

A 町が主体となり、彼岸船の保存施設の建設を進めたい。
(三村町長)

彼岸船の保存施設の整備については、以前質問を受けた時に、民間都市開発推進機構の拠出金の活用を提案したが、種々の問題から活用は難しいと聞いている。
しかしながら、彼岸船の長い歴史と伝統、ミニ彼岸船を作製するなどの各学校での彼岸船の取り組みや、多くの子供たちが参加する筆まつりでの活動などを勘案すると、彼岸船は熊野町の大切な伝統文化として保存、継承していかねばならないと考えている。
従って、団体規模の小さい彼岸船保存会単独での建設は困難であり、町が主体となり、彼岸船の保存施設の建設を進めたいと考えており、28年度或いは29年度の建設を目的に検討したいと考えている。

彼岸船の展示保存施設の建設について、平成24年3月議会において、常設展示は維持管理費の必要から財源確保に課題があり、検討するということがあったが、現在の状況を問う。



山野千佳子議員

なでしこジャパンの選手との交流▶



Q なでしこジャパンのワールドカップ出場に合わせての町内夏祭り

A 町内夏祭りとしての開催や町内各地区での祭りとの共催は難しいと考えている。
(三村町長)

女子サッカー日本代表に国民栄誉賞の副賞として本町で作られた化粧筆が贈呈されたことで、平成24年のロンドンオリンピックでは、女子サッカーを応援するイベント「ちようみん夏祭り」をNPO法人熊野健康スポーツ振興会への委託事業として実施し、町を挙げて応援をした。
来年開催されるカナダでのワールドカップの開催期間は来年6月上旬から7月上旬の予定であることやカナダとの時差等を考えると、町内夏祭りとしての開催、また、町内各地区での祭りとの共催は難しいと考えている。
しかしながら、熊野化粧筆との縁があるので、何らかの形で応援する方法がないか、検討しているところである。

2015年カナダで開催される女子サッカーワールドカップ出場の「なでしこジャパン」の応援を兼ねての町内夏祭りの開催は来夏予定しているのか。
年々盛んになる町内各地区での夏祭りとの共催はあり得るのか。

Q 土砂災害危険区域

A 県の警戒区域指定のための調査の進捗について、情報収集に努めていく。
(三村町長・内田総務部長)

本町が、ハザードマップに掲載している土砂災害危険区域は、平成11年に広島県が、国の土砂災害危険箇所調査要領等に基つき調査し公表したもので、県に確認をしたところ、現状では見直しの予定がないとのことであった。
警戒区域の指定は、土砂災害防止法に定める手続きに基づき、都道府県知事が調査・指定し公表するものであり、この作業は、調査内容が詳細にわたると同時に多額の費用も必要となり、県に要望しているが、本町の調査については未定とのことである。



時光良造議員

8月20日早朝広島市内にて発生した土砂災害を期にハザードマップ掲載の土砂災害危険区域の見直しと警戒区域の指定について町としての考えを問う。

Q 防災訓練の夜間実施

A 夜間の避難訓練については、前向きに検討していきたい。(三村町長・内田総務部長)

9月30日に東部地域の避難訓練を実施する予定である。避難訓練では、情報伝達や避難誘導、避難所の開設訓練も同時に行う。
また、熊野第二小学校全児童の避難訓練にも位置づけしており、平日の日中という想定での訓練である。
しかしながら、休日や夜間の訓練も重要であると考えており、特に、夜間や停電時の避難については、避難情報の伝達方法や誘導、避難所の運営など、多くの面で日中にはない困難な場面が予測されるので、ご指摘の夜間の避難訓練については、前向きに検討していきたい。

今後、防災訓練を実施する場合は、夜間の豪雨も想定し、日中以外の避難所開設、避難誘導等の訓練を実施してはどうか。

Q 甚大な人的被害が出た広島土砂災害を教訓に熊野町の防災対策の見直しを

山野千佳子議員

A 防災対策本部の設置時期や避難勧告の発令時期について検討している。(立花副町長)

現在、自主的に防災マップ作りや避難ルートの検証、地域の緊急時連絡名簿の作成に着手している地区もあるようである。
地域の方々が自発的に行動する組織づくりに向け、各種の取り組みや支援を行っていききたい。

自主防災組織の立ち上げは進んでいるのか。

ハザードマップ作成時に全戸配布した後は、地域での研修会や住民からの要望により配布している。
今後は、転入手続きの時や防災訓練等のイベントで配布ブースを設けるなど、周知徹底に取り組む。

町内における未曾有の豪雨による土砂災害が起こる予測は皆無とは言えない。
ハザードマップの周知徹底をどうするのか。